

医療法人社団リラ

溝口病院

障害者 自立支援法



病院長 溝口 明範

今年も記録的な暖冬だったせい、春も早足で来ました。また定期的に雨も降ったせいでしょうか。インフルエンザの流行も静岡県ではあまりなかったようです。しかしノロ・ウィルスは猛威を振るいあちこちの病院や施設で多くの感染者が生まれました。幸い当院では入院中の患者さんにはインフルエンザもノロ・ウィルスも感染者は出ませんでした。

「障害者自立支援法」ですが、国会でも取り上げられ様々な問題点が浮き彫りになりました。一番大きな問題は、やはり自己負担の増加による経済的な圧迫でしょう。とくに知的障害者が経済的負担に耐えられず施設に通所できなくなったケースがあると新聞では報じられています。これを精神科に通院している人々と置き換えてみたらどうでしょう。自立支援医療により自己負担が増えた結果、医療費が払えずに通院ができなくなったらどうなるのでしょうか？

服薬が中断され病気が再発する事態が目に見えてきます。もし病気が再発した場合また元の状態に戻るには大変な苦痛と時間がかかります。実際にこのようなケースはまだ出ていませんが、精神科に通院している方々は再発の予防のために長期間服薬する必要があります。わずかでも自己負担が増えると、それが長年積もれば相当な負担増になるはずなんです。私たちはこのような経済的理由から服薬が中断された結果、病気が再発する事を大変恐れています。

先ごろ厚生労働省は「自立支援法円滑施行特別策」という自己負担の緩和策を出しましたが残念ながら自立支援医療については緩和されませんでした。

平均で10%という通院医療費の自己負担は障害者にとっても限界です。

今後はこれ以上自己負担が増えないように願って止みません。

抗精神病薬の 定型薬と非定型薬の 違いについて

薬局長 下山 俊明

統合失調症の治療薬のクロルプロマジンやハロペリドールなどのこれまで長い間使用されてきた従来型抗精神病薬は薬物によって多少の違いがみられます。共通して脳内の神経伝達物質のうち、ドパミンの過剰な働きを阻害して、幻覚・幻聴や妄想といった症状を抑える作用を持ち、これらは定型抗精神病薬（以下、定型薬）と呼ばれています。一方、十年ほど前から日本で使用されることができるようになったリスベリドンをはじめヘロスピロン、オランザピン、クエチアピン、アリピプラゾールなどの新規型抗精神病薬はドパミンに作用するだけでなく、セロトニン、ヒスタミン、アドレナリンなど他の脳内神経伝達物質にも作用することから、従来型と違うという意味で非定型抗精神病薬（非定型薬）と呼ばれるようになりました。

効果においては、定型薬は主として陽性症状と呼ばれる幻覚・幻聴や妄想などに効果がありますが、陰性症状と呼ばれる閉じこもり、意欲的になれない、自分の外見を気にしないといった症状にはあまり効果がありません。一方、非定型薬は陽性症状、陰性症状共に効

果があり、さらに認知症状と呼ばれる学習や集中力の問題がある状態も改善する効果も持っています。また、手や体のふるえ、舌やあごのこわばりなどの錐体外路症状と呼ばれる副作用も非定型薬の方が少なく、再発予防効果についても優れているといわれています。したがって、現在では非定型薬は統合失調症治療の第一選択薬に位置づけられています。

しかし、定型薬にしか治療効果を示さない方がいること、長い間使用されているため研究が進んでいること、注射剤があること、値段が安いことなどの理由で、患者様の医療費負担が軽くてすむことなど定型薬にも長所があります。

薬の効果や、効果が現れるまでの期間には個人差が大きく、症状にも波があります。薬の種類だけでなく、その用量も大切です。治療法も抗精神病薬も進歩しています。病気と薬について正しい知識を身につけ、主治医と相談しながら、自分に一番合う薬とその用量を見つけていくことが大切です。

ガーデン・ホスピタル

街の中にありながら、みずみずしい緑と共に、やすらぎの空間が広がります。すみずみまで気を配った安全性。プライバシー保護には万全のシステムを採用。入院ではなく滞在であり、治療を超えた癒しの場でありたいのです。

2007.4

春号

医療法人社団リラ
溝口病院

看護部初任者 研修会

3月7日、1年未満の初任者を対象とした看護部初任者研修会が行われました。病棟の看護師・看護助手6名が参加し、日頃の業務について再確認等を行いました。

〜振り返り研修に参加して〜

4 病棟 佐藤朱美
入職してあっという間の1年でした。日々業務に流されがちですが、このような研修に参加したことでまた新たな発見がありました。また、励みにもなりました。このような機会を与えていただき、ありがとうございます。



看護部院内 勉強会

2月7日(水曜日)に、「薬の副作用によって起こり得る身体合併症について考える」というテーマで、看護部院内勉強会が行われました。事例を用いたグループディスカッションには18名の看護師が参加し、2グループに分かれて活発な意見交換がなされました。

麻痺性イレウスや誤嚥性肺炎など、合併症を早期に発見して対処するためには、知識に加えてこの患者様のサインを読み取る力が問われるということを感じ、お互いの経験・技術を共有し、現場に繋げる良い機会となりました。



院内勉強会

2月20日(火曜日)、作業療法室にて院内勉強会が開催されました。「精神科医療における安全管理のポイント」をテーマとして、転倒リスク、配薬ミス予防についての話題が提供されました。



デイケアの活動紹介

デイケアってなんだろう…

「退院したけど、すぐに働く自信がない」「家にいると生活が不規則になってしまっ」「友達がない人と上手につき合えない」こんな悩みを持つ人たちが、昼間はデイケアに通いながら、生活のリズムを整えたり、対人関係の改善をはかるなど、集団の中で学びながら社会復帰と自立を目指した通院治療の一つです。

溝口病院のデイケアは、「楽しくて、選べるプログラム」をモットーに活動しています。その中に「デイケア1」「デイケア2」という二つのグループがあります。

☆「デイケア1」では、「生活の自立」を目指したプログラムを主として活動を行い
☆「デイケア2」では、「安心した生活」が保障されるプログラムを目指し活動を行っています。以下の表はプログラムの一例です。午後は「デイケア1」と合同でやっています。

デイケア1				
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
デイケア工房 作ってみよう	自分を磨こう 自己成長時間	サークル (室内サッカー)	料理 ピアトーク	自立に向けて (就労)
多目的活動 (将棋大会) など	ビデオ鑑賞 2本立て	趣味の時間 外出など	みんなで創作	テニス バタールゴルフ

デイケア2				
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
仕事体験を してみよう	趣味の時間 個人相談	音楽鑑賞& 喫茶	趣味の時間 個人相談	仕事体験を してみよう
多目的活動 (フレグランス作り)	レクリエーション	趣味の時間 外出など	書道 let's sing a song トールペイント	体育館野球

月曜日～金曜日の週5日間、9時15分～15時15分まで活動をしています。

イチゴ狩り、一泊旅行、ボウリング大会、クリスマス会など、季節に応じたイベントや、外出も盛りだくさんです！

デイケアに通うには、主治医の先生の許可が必要になります。まず、見学をしてみたいと思った方は、主治医の先生に相談してみてください。見学をして、通ってみたいと思った方は、5日間の試行通所がありますので、自分に合っているかどうか試してみてください。試行通所終了後、再度主治医の先生と相談し、通所を決めて行きましょう。

デイケアに通ってみたいけど、通えるかどうか不安な方。また、通ってみたいけど週5日は無理かもしれない…という方も、ぜひ一度、見学に来て下さい。お待ちしております。